

江戸川・ふれあい松戸川 生き物いきいきプロジェクト ～第2回 江戸川・ふれあい松戸川かわまちづくり協議会～

2026年7月7日（火）開催

第2回江戸川・ふれあい松戸川 かわまちづくり協議会が開催され、今後のプロジェクトの軸とすべき江戸川・ふれあい松戸川の水辺空間の将来像について意見交換が行われました。

町会・自治会や活動団体、学識経験者、行政など多様な主体が参加しました。

日時： 2026年7月7日（火）10:00～11:30

会場： 松戸ビルヂング 20 階

議題： (1) 水辺空間の将来像
(2) 社会実験について

開会 事務局の河川清流課長より開会の挨拶があり、本日の協議会の趣旨やこれまでの経緯について紹介がありました。

議題(1)水辺空間の将来像

長谷川教授（アドバイザー）

江戸川の魅力である駅から直線距離で近く、自然環境は非常に豊かであること、多様な特徴を持った空間があるということを活かしながらどのような利用が可能かそのヒントになる水辺空間の活用事例について、

①堤防上部、②ふれあい松戸川沿い、③江戸川河川敷広場、④橋梁下の観点から紹介をいただきました。

①堤防上部：

- ・桜などを植えて並木とすれば、木陰にもなる。また、江戸川の土手には、菜の花が一面に咲いているが、“花の名所”としての利用も考えられる。東屋があると日差しや雨をしのげ、滞在する場所、読書やおしゃべりする場所になる。展望テラスや飲食スペースがあると賑わう。今はただ歩く場所になっているが、そこが滞在の場所になっていく。
- ・夜も積極的に使うべきで、特に夏の夜に、夜風に吹かれながら、のんびりできる場所があると、街の一部として江戸川の河川地域が生きてくる。トイレは大事で、本当にプライベートな部分だけセキュリティを配慮し、手洗いとかおむつ替えのスペースは全部外に出していくことで、トイレも一つの居場所になる。また、サイクリングステーションやランニングステーションなどもニーズがあると思っている。

②ふれあい松戸川沿い：

- ・ふれあい松戸川は、江戸川とスケール感の違う水面があり、その両側に自然豊かなゾーンが広がっている。木陰の小さなテラスで読書したり、ピクニックしたり、野鳥観察の場所になったり、自然観察路みたいな、なるべく自然環境を壊さないようにさりげなく道だけ配置することで、気持ちのいい場所ができる。河川敷の林をドッグランとして、人と犬と一緒に木陰で過ごしたり、ふれあい松戸川でカヌーの練習をすることもできる。川にちょっと張り出したデッキがあると気に入った場所を見つけてのんびり滞在できたり、土手のお店からサンドイッチを買ってきて軽くランチをしたり、Wi-Fi を飛ばせれば、オフィスから離れて仕事をする場所にもなる。

③江戸川河川敷広場：

- ・大きな広場自体が様々な利用ができる。ボール遊び、風揚げ、スライダーのコース、ピクニック、星空の下でキャンプや焚き火、キッチンカーでの物販、結婚式等のイベントもできる。また、徒歩・自転車だけだと非常に小さな範囲の人しか



対象にできないので駐車場を造り、車で来た人がいろいろなアクティビティができるようにする。花畑の大きさも河川敷ならではの広い範囲への展開が可能。市民農園的な利用により、土手の上のカフェや東屋等の滞在スペースと連動して半日過ごせる場所になる。河川敷には構造物は作れないので、木陰やタープによる日陰などをつくることで、暑い夏の日とくにも使えるような場所になる。ポップアップ噴水は、非常に子供に人気があるので、子供たちが来る場所になる。

④橋梁下：

- ・大きな屋根の下というふうにと考えると、様々な使い方が考えられ、大きなポテンシャルがある。バスケットコートやスケボーパークなどには、それを目的に人が集まる。トランペットやダンスの練習をしたりする小さな練習スペースとか舞台になっていくと、面白いと思う。橋桁に照明を付けると、一気に舞台になっていく。映画祭を行うことも考えられる。

⑤全体を通して：

- ・どのような管理方法にするのか、マネージメントの考え方が大きく影響する。河川敷のマネージメントがしっかりしていないと整備した施設も荒れ果ててしまうので、それを含めて人間が動き続ける仕組みが必要。河川敷の安全性として“ちょっと怖い”感覚を払拭しつつ、いかに手を付けられない土地を残していくかが一つのテーマとなる。

協議会各委員

- ・松戸市観光協会と江戸川松戸フラワーライン実行委員会から「松戸初めて散歩」の実施結果として、参加者から江戸川は日陰や休憩場所がなく、おむつ替えや休憩できる場所が欲しいという意見や、今後はハード面の整備、ソフト面の自然体験プログラムなどがあると人を誘導させやすいとの意見がありました。
- ・水辺でカヌー、キャンプ、バーベキューなどを安全にできる整備が必要、またキャンプ道具等を災害時にも使いこなせるように子供達にもレクチャーをするプログラムを作っていく。出来れば子供たちが遠くに行くのではなく、松戸市内でそうした体験ができるといい。
- ・矢切河川敷のサクラのように個人からの寄付等の手法も参考にしてはどうか。土手の菜の花は、土手の管理とうまく折り合いをつけていくべき。
- ・江戸川の本流からふれあい松戸川に通水できないか。ドローンショーやプロジェクションマッピングとかできたらいい。常設のイベント会場が欲しい。松戸駅西口デッキと河川敷と共通のイベントで人を呼び込みたい。
- ・週末のイベント連携は大事と思う。平日の昼間にも人が集え



るような場所であってほしい。そのためにコワーキングスペースで Wi-Fi で打ち合わせやレンタサイクルの充実、ちょっと仕事で疲れた時に川辺で休憩できると良い。映画やドラマの撮影場所として使われ、聖地巡礼の需要も生まれる。

- ・親子で散歩できる子供向けの江戸川マップ。図書館で、本を借りて江戸川に立ち寄る。江戸川でちょっと子供が遊んでいる間に親も少し休めるみたいな場所が作れるといい。子供の遊び場としてシートや望遠鏡の貸し出し。夜は真っ暗で怖いので、焚き火で、焼き芋マシュマロみたいなことで、夜の景色を楽しんで涼しく過ごす。
- ・野外音楽フェスの小さいバージョンやドッグランイベントや例えば“ハワイ”をテーマにしたキッチンカーとハワイ雑貨店が集まるイベントなど。イベントには電源や水道、日陰、駐車場などが必要。
- ・江戸川本流の水がふれあい松戸川を通り流れていくような環境になるといい。
- ・松戸市と佃モンベルの協定については、色々な形で協力してもらえるのではないかと期待している。土手斜面の雑草が繁茂していて河川敷まで降りられないことがあるので草刈りのレベルアップを図る。
- ・ふれあい松戸川は、ところどころに休憩場や観察場所を作ったり、土手上にトイレを整備したり、ふれあい松戸川に行きやすくするために橋を作ったりというのは必要だと思うが、あまりにも人の手が入りすぎると自然が損なわれて、せっかくの野鳥や生物多様性も失われる懸念がある。
- ・江戸川で毎日のように土手を散歩しているが、土手を歩くだけで、河川敷は敷で休憩場所も何もなく、ふれあい松戸川の方に降りていくとはいえない。ふれあい松戸川が、もっと子供が水辺で遊べるといい。
- ・松戸神社のビオトープで蜚を育てているが、ふれあい松戸川でもホタルが光るようになれば親子たちが見に行くと思う。



小林副会長

ふれあい松戸川の自然環境で一番価値があるのは野鳥だと思う。それ以外の自然環境の要素としては、河川敷の樹林、江戸川本川の大きな水面、ふれあい松戸川、街側で浅瀬のある坂川、ワンドがあるというのが大きい。また、水溜まり状態のところを今後どうしていくのか。その際に護岸の蛇籠が子供にとって危険とならないか、ふれあい松戸川の利用の課題になる可能性がある。大きなイメージとして、江戸川は大河川の下流部として本川と支川が形成され、大元の関東平野の河川の原形であり、ふれあい松戸川を少し改善すると色々な魚類や自然環境が再生される可能性もある。ふれあい松戸川の課題等について野鳥の会やホタルの育成を行っている人、カヌー協会などの人たちと、話し合えばよいのではないかな。



秋田会長

- これまでの各委員の意見について整理いただきました。
- ・「利用」「保全」「再生」という3つの大きなテーマがあり、それに加えて、「つなぐ」ということが重要なテーマだ。それは、親から子供へ記憶や経験へのつなぐ、市民参加によるつなぐ、駅の人を河川につなぐとかが大事。
 - ・もう一つは、時間軸について、四季「春夏秋冬」、1週間「平日休日」、「昼と夜」という話も出てきました。その“時間”と“つなぐ”ということ。
 - ・ゾーンとしては「利用」「保全」「再生」が、キーワードになってくる。



江戸川河川事務所（オブザーバー）

江戸川とふれあい松戸川の水の循環については、令和5年に江戸川の水がふれあい松戸川に入るように一部改良しているので、江戸川の水位に伴ってある程度水が循環するようになっている。江戸川からの間口を広げて、江戸川の水がもっ

と入りやすくするべきか、それとも今のままで行くのかは、今後の皆さんの考える使い方によって改造もできる。

護岸は、カゴマットをベースにして作っており、その上に50cmから1m程度覆土している。それが露出していなければ特に危険では無い。もしも露出している場合は埋めることはできる。

水辺の樹木は生態系には良いが、治水上の観点からは、多すぎると流水の阻害になる。だから間引けるとところは間引くし、管理するところは管理するという場所によって方向性を示せるとよい。永続的に綺麗な状態で使うには、やはり人が手を入れていく事を念頭に考えていくべき。



東葛飾土木事務所（オブザーバー）

堤防上は自転車や歩行者が通行しているが、今よりも多くの人が集まるようになる場合に、堤防天端の広さがもっと必要になると思う。市街地側から河川敷に移動する人が多くなった場合、堤防上の自転車と歩行者の動きに危険が無いように考えていく必要があると思う。ハード的な施設を作る際は、維持する人の確保など将来維持していくことも考えながら検討していく必要がある。



長谷川教授（アドバイザー）

秋田先生が言われた通り、「利用」「保全」「再生」のバランスが大事で、我々もよく自然豊かな環境での観光・リゾートの仕事では必ずそこに当たる。そのバランスは、本当に我々デザイナーも真剣に考えなければいけないところで、その自然と利用の関係のマネージメントは、固定した関係ではいけないもの。常にお互いを意識しながら、動き続け、バランスを取るしかないという感じである。

大事なものは、民間・行政を含めた組織としても、今日出されたような意見を入れながら動かしていくか、継続していくか、その辺の組織化みたいなこともこの計画の進捗に合わせてハード整備と同じウエイトで並行して進んでいけるといいなと思う。

アウトドアメーカーのモンベルは、自然と共存している非常に象徴的な存在だと思う。我々も自然の、「利用」と「保全」のどちらかを大事にするのではなく、どちらもお互いに依存しているという関係をみんなで共有できれば、すごくいい場所になる。自然豊かな環境を楽しむためにお金を落としてもらい、そのお金が保全に役立つという循環でいけると良い。

週末だけでなく、いかに平日も使ってもらえるのか、休日のピークだけだとオーバースペックになりがちなので、なるべく利用を平準化することは重要だ。

議題(2) 社会実験について

ふれあい松戸川周辺の草刈りを日本野鳥の会千葉県等の協力により実施。実験後の意見交換では、日陰や休憩地点となる施設があった方がよいという意見や、在来種や繁茂しているツル植物、オニグルミやノイバラなどが多く見られることから、改めて自然の管理方法を検討する必要があるという意見があった。

閉会

江戸川松戸フラワーライン実行委員会のご協力のもと、花畑の一部に実験的にサツマイモとサトイモの苗を植えて、土壌の変化や収穫状況を踏まえ、新たな活用を考えています。

協議会後”水辺で乾杯”

